



## 患者さんの思い 届いてますか !!

看護研究グループ

8月5日に当院がん看護研究グループと看護科長会の主催による「体験者の語りに触れる学習会」が行われました。学習会では、社会資源についての話や「悔いのない生き方に気づく24の物語」からの朗読会、がんと向き合う24時間チャリティーイベント「リレー・フォー・ライフ」の紹介が行われました。

社会資源の活用では、患者さんが治療や療養を続けていくうえで大きな問題である経済問題にはどのような支援策があるのか、医療ソーシャルワーカーの吉田さんからお話を聞きました。私たちがそれらの社会資源について理解し、適切な情報を



社会資源活用の説明



朗読の聴講

患者さんに提供していく事は大切な役割のひとつだと思います。

朗読会では、患者さんの体験からその思いがつづられた文章の朗読が行われました。中には当院看護師の体験記もあり、どれも胸を打たれるものばかりでした。私たちが日々の中で見過ごしてしまっていることや、忘れかけていることを気づかせてくれたのではないかでしょうか。そして、私たちに人を思いやる心や、言葉の大切さなど多くの事を教えてくれたと思います。

がんは、昭和56年にわが国の死亡原因の第一位となり現在に至っています。国の「がん対策基本法」の目標のひとつにすべてのがん患者およびその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上が掲げられておりがん患者を含めたすべての国民が、がんを知り、がんと向き合いがんに負うことのない社会の実現をめざすこととしています。

その中で、私たちに求められているのは、患者さんと向き合い、患者さんに寄り添った医療、看護を提供していくことではないかと思います。今回の朗読会が患者さんの様々な思いを伝えてくれました。今後も時には患者さんやその家族も参加できるような会を続けていってほしいと思います。



朗読の聴講

# 「糖尿病教室運営委員会」活動報告

糖尿病教室運営委員会委員長 柳沼健之

糖尿病教室運営委員会は、現在、医師、薬剤師、管理栄養士、看護師、理学療法士および臨床検査技師により構成されております。スタッフのうち四名はすでに「日本糖尿病療養指導士」の資格を取得しております。糖尿病教室運営委員会では入院中の糖尿病患者の療養指導にあたると共に毎月一度の定例委員会において、糖尿病に関するスタッフの勉強会と症例検討会を開くとともに、各種研修会にも積極的に参加して、スタッフの技量の向上に努めています。

当委員会では入院患者さんを対象とした糖尿病教室の運営を行なうことが仕事の大きな柱となつております。すなわち、「糖尿病の疾患解説」「糖尿病の栄養指導」「糖尿病の運動療法」「糖尿病の薬物療法」「糖尿病の臨床検査」「糖尿病患者の日常生活」「糖尿病患者の合併症予防」などについて、入院患者さんを対象として講義や実習を行なっております。例年四十名から八十名の患者さんに糖尿病教室を受けていただきましたが、昨年は若干減少し二十八名でした。糖尿病の患者さんが減っているわけではありませんが、不況のために入院治療を受ける患者さんが減少したためと考えられます。



フットケア中

した。「重症糖尿病外来」では、医師の診察のみではなく、管理栄養士による栄養指導、「日本糖尿病療養指導士」の資格をもつ看護師による日常生活指導を行なつており、患者さんのコントロール状態が改善するなどの成果をあげております。「フットケア外来」では、糖尿病の足病変の早期発見や合併症の予防、足の観察や手入れの方法などにつき、三十分以上の時間をかけて患者さんの指導にあたっております。また「フットケア」につきましては、「日本糖尿病療養指導士」の資格を持ち、かつフットケアの研修を受けた看護師が、講師として講演するなどの院外活動も積極的に行なっております。これらにおいて、糖尿病の患者さんの合併症進展を少しでも遅延し、日常生活能力が維持されるべく活動を続けております。

「糖尿病」は、生活習慣の変化に伴い激増しております。推定患者数は、予備軍を含めて二千万人を越え、国民の六人にひとりが「糖尿病」または「予備軍」と言われております。当院におきましても糖尿病の患者さんは着実に増え続けておりまして、「糖尿病診療」は当院内科診療の大きな看板のひとつとなっております。

来年は、卓球男子も女子に負けずに入賞することができるよう、定期的な練習を行い早めに準備をしたいと思いますので、みなさんのからの応援よろしくお願いします。そして、選手のみんな、来年に向けてまたがんばりましょう！

## 東北・北海道地区社会保険病院 球技大会の報告

情報管理室 熊本 康

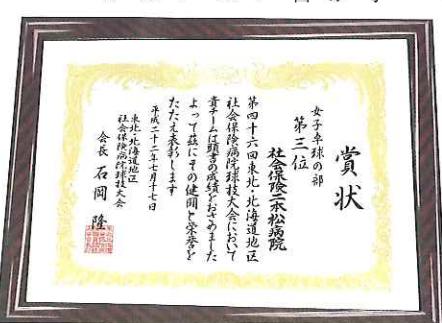
去る七月十六日・十七日秋田県能代市にて東北・北海道地区社会保険病院球技大会が開催されました。当日は、バレーボール女子と卓球の男女合わせて七施設、約二二〇名の選手による熱戦が繰り広げられました。

大会の行われた体育館の中は、三〇度を樂に越える猛暑と選手たちの熱気で、ただ立っているだけでも汗が吹き出しお世辞にも良いとはいえないコンディションでしたが、約二ヶ月に及ぶ練習の成果を發揮するため、卓球の選手みんな精一杯ラケットを振りました。

結果、男子は予選一勝一敗でセット率、得点率により予選敗退となつてしましましたが、女子は昨年に引き続き三位に入賞することができました。

試合後には、大会の行われた能代市から秋田市へ移動し、選手たちそれぞれのプライベートの話を肴に盛大に反省会を行いました。この大会に参加したことでの今まで以上に選手たちの親睦を深めることができたと思います。

(その結果、暑い体育馆で一度は落ちた体重も、きつかり秋田で取り返して来ることになつてしましましたが…)



## 東北・北海道地区軟式野球大会

野球部 菅野 圭

昨年の秋、県北病院ソフトボール大会でベスト8になり、その勢いのままに、この暑い夏の最中、土曜、日曜、ナイターと練習を重ね、今大会に臨んだ。

対戦相手は常勝・北海道、同じく強豪の東北厚生年金病院、素晴らしい運だ!

その二チームと暑い中、続けて二試合を行ない、我がチームは、守って、守って、守り続け、そして試合は終了した。

それでも素晴らしい場面はあった。(数えるぐらいだが) サイン通りの盗塁からクリーンヒットで得点したり、外野からのバックホームで本塁タッチアウトにしたり、ピッチャーチャーが相手四番から三振を奪つたり……。

今大会は途中から若手選手を中心構成したので、彼らにはかなり勉強になつたと思う。

「若者よ、すべて経験だ! このくやしさを忘れるな!」

チームの明るさと懇親会は一番だつたから!」

それと関係各位の皆様、我がチームはこれから伸びます! 優しく大きな愛で見守つてください。よろしくお願いします。



## 大森名譽院長 叙勲受章祝い



春の叙勲で【瑞宝双光章】を受

章されました大森名譽院長の叙勲受章のお祝いを九月十一日にウエディングパレスかねすいで行いました。

発起人をはじめ二本松市長、安達医師会、関係団体、病院職員等の出席者約二三〇名で行われ、二本松病院にとつてもたいへん名誉なことでした。

関係者が祝辞を述べた後、大森名譽院長は、「生涯を医療と福祉に捧げたい」と謝辞を述べられました。その後は祝舞やトランペットの演奏があり、終始和やかな雰囲気で行われ無事終りました。

## 夏の富士登山に参加して

理学療法士 関 和良太

今年の夏、富士山の登山ツアーパーに参加してきました。登頂に向け近くの山々で体力をつけ十分な体制で臨みました。富士山の道はなだらかな坂道で酸素が薄く、すぐに息切れするような環境、練習で登った山とはまた違った過酷さがありました。幸いなことにツアーパー中は常に晴天ですばらしい景色を見ることが出来ました。

ツアーパー当日は渋滞に巻き込まれ到着時刻どおりには行きませんでしたが、無事富士山のご来光を望むことが出来ました。ゆっくりと上つてくる太陽の光は、ここまで登ってきた時の苦しさや、下界での様子をすっかり忘れさせてくれるかのように「無の心境」にさせてくれました。

下界に降りるとまたもや渋滞に巻き込まれ、当日帰る予定が帰れず、ツアーパーの仲間とは帰る時間が別々になりました。渋滞もまたとてもいい夏の思い出になりましたが、皆さんも機会がありましたら是非日本一の富士山へ登つてみてはいかがですか。



## フォトギャラリー

わたしの名前はリボン、あすましだけど甘えん坊な、マルチーズの女の子です。今年の6月で4才になりました。大好きなのは抱っこしてもらうこと。苦手なのはお留守番です。一人ぼっちにされると、淋しくてキュンキュン泣いちゃいます。

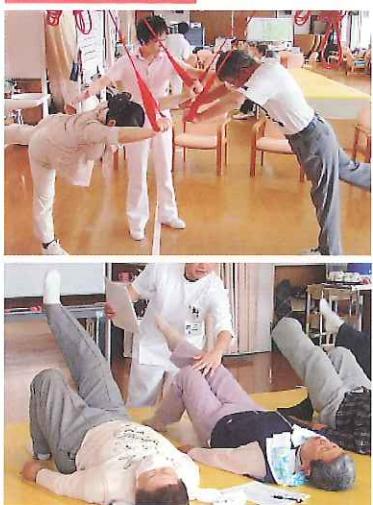
でも私はお姫様だから、みんなほめつたに私を一人ぼっちにさせません。

たま～にイタ Strauss しゃうけど、普段はありこうさんな私をどうぞよろしくです。

理学部：大内 秀和



転倒予防教室開催



## 筋力アップ・バランス向上で転倒を予防しよう

日 時 ■ 22年10月16日（土）

場 所 ■ サンピューニ本松1階  
レクリエーション室

時 間 ■ 午前9時00分～（約40分程度）

参加費 ■ 無 料

※当日は、タオル・靴をご用意ください  
申し込みはリハビリテーション室まで

エクササイズマシンなど  
を使って指導します。



●エクササイズマシン  
足全体の筋肉を使っての伸縮運動です。  
下肢の筋肉を回復するにはこの機器が  
効果的です。

## 編集後記

本当に今年の夏はひどかった：

「猛暑」「最高気温」「熱中症」で〇〇人入院。そんな言葉がテレビから毎日のように流れる中、我が家のかーラーがある日突然故障。「これから一週間、更に真夏日が続くでしょう。」とニコニコ顔のお天気お姉さんを、一瞬恨みそうになつた。息子の剣道の大会では、観戦中選手の一人が倒れ、その応急処置に追わされることに。また、別の大会では、息子が熱中症に：悲惨な夏もどうにか終われば、地元の私は秋の「ちょうどちん祭り」だけが心の支え。お祭り前に連日続く、息子達の太鼓稽古の送り迎えのことを考えると、チョットと眩暈はするけど、栄養ドリンクの力を借りて、何とか乗りきろうと思う。

(K・N記)

## AEDの勉強会

みなさん！ AED（自動体外式除細動装置）が院内のどこにあるかわかりますか？ 正解は、医事課入り口脇に平成20年12月から設置しております。みなさんの不安を取り除くためにも9月9日の救急の日にちなみ、ME課・救急業務検討委員会・医療安全管理委員会合同主催の勉強会を9月7日に開催しました。

なぜ、AEDが必要なのか？ それは、突然心臓が停止した傷病者に2分以内に除細動を行うことで救命の可能性が80%以上、5分以降では50%と言われているからです。早期に除細動をかけることで効果的な治療が行われます。AEDは傷病者の心臓のリズムを調べ、治療のために電気ショックが必要かどうか自動で判断します。除細動が必要な場合、救助者に音声ガイダンスで、どのような手順で行うかアナウンスしてくれます。

今回の勉強会は、ビデオ研修その後実技を行いました。参加者20名の中から我こそはと思う職員が、実際の実技に取り組み時間の経つのも忘れるくらい一生懸命の実技でした。参加した職員の方々ご苦労さまでした。

二十二年度の行動規範  
笑顔 気をつけよう  
真心 思つたつもりの思つたつもりの思い込み  
思いやり



今月の目標

## 人事異動

退職者  
服部由美子（8月30日退職）

こんにちは赤ちゃん  
看護師 日向里香（9/2女児）  
看護師 尾崎縁（9/4男児）